



妻割

R18
ADULT ONLY

18歳未満閲覧禁止

先日
取引先から
この限定酒を
もらったんだ

どうせなら
鯉穂君と
飲みたいと
思ってたな

そおら
こぼすんじゃないぞお

うはははは

なんて
馬鹿げた行為
なの…

冷たい

ヤキ

トク
トク
トク
トク





では…
頂こう



知らないわよ
通とかあるの？

それをあわび酒とも言うが

本物のわかめ酒は
わかめ抜きに限る

注文通りに
下の毛を
剃ってきたのは
偉かったぞ



恥ずかしいこと
言わないでっ…

それも
また一興か

日中で
生えてきた
新たな陰毛が
口に当たるが…

んん
剃ったのは
昨晚か？



ならんなあ

食材も女も同じ

適切な料理を
してやることで
味も価値も劇的に
跳ね上がるものだ



永久脱毛してみるか？
金なら出してやるぞ

結構よ！



うゝむ：
銀行がねエ



遡ること
数日前—



いやいや—
葛藤もあるうに
よく打ち明けて
くれた

すみません…

もっと早く私に
相談してくれれば
よかったものを…



白望会病院 部長
山根 浩憲

微力だが
資金援助を
約束しよう

えっ…
本当ですか
山根先生!?

なあに
これも投資だ

こんないい店
潰しちゃならん

山根先生…!!

大衆割烹 伊吹 店長
錦織 恵三

秘密の隠れ家的な
魅力を感じて
友人たちに
内緒にしすぎた…

今後は
どんどん紹介して
みるよ

舌の肥えた
奴らもいるが
君の腕なら
きっと大丈夫だ

本当に
ありがとうございます
ございます!

さて…

男と男の
大事な話も
済んだことだ

そろそろ
一献傾けても
よいかかな?

鯉穂!

先生にお酒を
お出しして

スタスタ

…はい

ああっ
もちろん
ですとも!

：お持ち
致しました

大衆割烹伊吹 店員
錦織 鯉穂

おお
これこれ

日本酒は
冷酒に限る

スッ

実は今回の件を
先生に相談しようと
勧めてくれたのは
鯉穂なんです

きつと
山根先生なら
力になって
くださるって

出来た妻を
持ったな恵三君
大事になさい

いや本当に私には
もったいないぐらい
最高の妻で：

いやいや
お似合いだぞ



真相は
この数日前――

すでにアタシが
山根に相談していた

それは可能だ

だが
条件がある

便宜を図る
対価に――

半年間私と
愛人契約を
結びなさい

無論
恵三君には
秘密でな

!?

聞かなかった
ことにしても
いいぞ？

愛する
“伊吹”が
潰れるのは
惜しいが…

飲食店とは
そういうものだ

あ愛人…
それって
つまり…

だが
君ら夫婦に
とっては
どうかね？

「伊吹」はこの世にただ一つの
大切な店だろうか？

そうだ…

子宝に
恵まれなかった
アタシたちが

子どもに
つける予定だった
名前を店につけた



「伊吹」は
アタシたち夫婦の
子どもそのもの

私以外に
頼れる人間が
いるなら
そちらを
頼りなさい

あつ
待って…

わっ…
わかりました
引き受けます

よろしい

ではまた
連絡する

ガラガラ

お見送り
ありがとうございます

平日の夜は
この通り
ほぼボウズ：
先生の紹介を機に
客足が伸びてくれると
いいんだけど…

だ大丈夫よ
山根：先生なら
なんだかんだ約束を
違えたりしないって

自信持って！

なにより
あなたの料理は
とても美味しいから！

絶対
大丈夫！

鯉穂…

…ありがとう

鯉穂の「大丈夫」に
いつも救われてるよ

あなたにだけ
苦労はさせない

「伊吹」を
守るためなら

アタシも
戦うから—

そしてアタシは夫に
新しいパートと偽りー

平日の昼間から
山根の有する
マンションに
呼び出され

「アッ...」

愛人として
肉体奉仕を
強いられている

「あ...」

「へ...
れ...」

…いつまで舌先で
転がしているのかな？

内頬と舌を
亀頭に密着
させるんだ

唾液を溜めて
空気を抜き
真空に近づける

音が出るが
気にするな
盛大に鳴らせ

ヨダレも
撒き散らせ
上品振るな

注文
多すぎ…!!

そろそろ
唾えてくれても
よい頃だと思うが…

昔から
フェラは苦手で
夫にするのさえ
避けてきたのに…

カッパッパッ…

ハッパッ…

ハッパッ…





しかし：
女の仕込みに
かけては
不得手なようだ

はっはっは



君の夫：恵三君は
実に優秀な職人だ

食材の仕込みは
丁寧できめ細やか



アタシのことを
悪く言うのは
百歩譲って
聞き流せるけど

恵三さんのことを
侮辱するのはやめて



上等な食材も
粗末な仕込みや
安価な器に載せられては
その価値は半減する

そこに転がる
安物の下着が
まさにそうだ

普段店で
出来ていることを
鯉穂君にもして
やるべきだと
言っているだけさ



率直な
批評だよ

「高説どうも…」

でも次言ったら
承知しないから

フフフ…
活きがいいな

素晴らしい

アッ

これは
仕込み甲斐が
ありそうだ

ほ
か
あ
あ

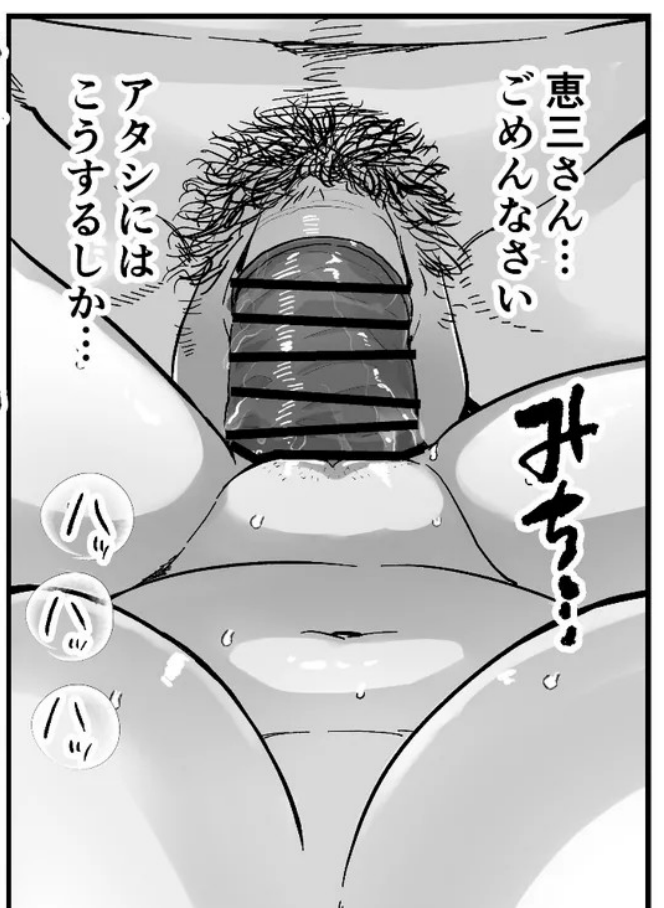
んんん
アッ
アッ
アッ

んんん
アッ
アッ
アッ

アッ

アッ

アッ





これが本当に
還暦超えた
おちんちん…!!

元気すぎる
でしょ…!!

月並みの
質問だが…

どうかな？
恵三君のモノと
食べ比べてみて

君の
率直な批評が
聞きたい

ニ
タァァ



ダメダメ
ダメダメ...

何？

ダメ...

んん
何がダメ
なんだ？



どうしたの
かな？

おやあ？

？

キム
キム



ここか？
ここ
だろう？

身体は
実に正直に
答えているぞ？
はっはっは

なんで
こんなっ...

気持ち
悪いのに...

コイツのモノが
馴染んでいくの...!?



鯉穂君ほどの名器は
いなかっただな

若い頃より
それなりに女は
食ってきたが

締まりといい
濡れ具合といい
感度といい…

それ…
褒めてる
つもり!?

もちろん



ふう…



この
セレンディピティ
をな!

伊吹に
初めて訪れて
一目見たときから
確信していたぞ!

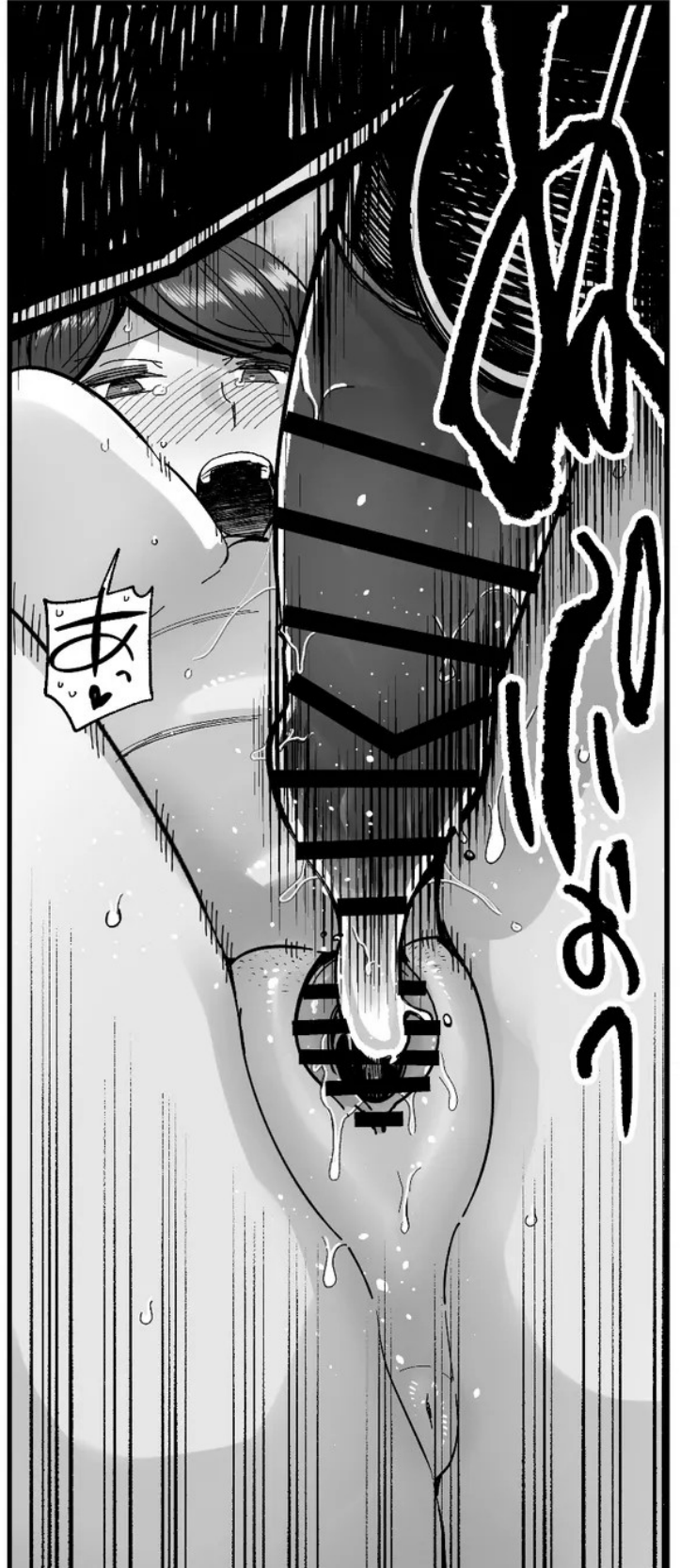
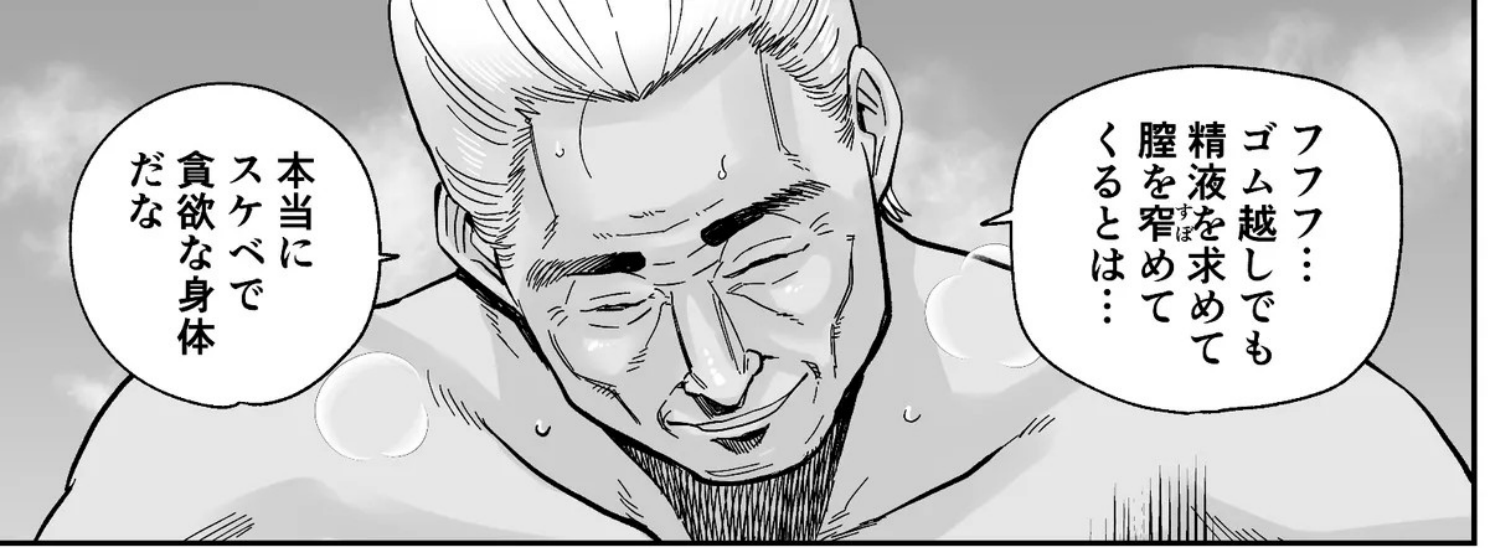
意味の
わかんない
…



さらに
素晴らしいのは
その表情だ

罪悪と快樂の
アンビバレント…

苦悶と恍惚の
アウフヘーベン

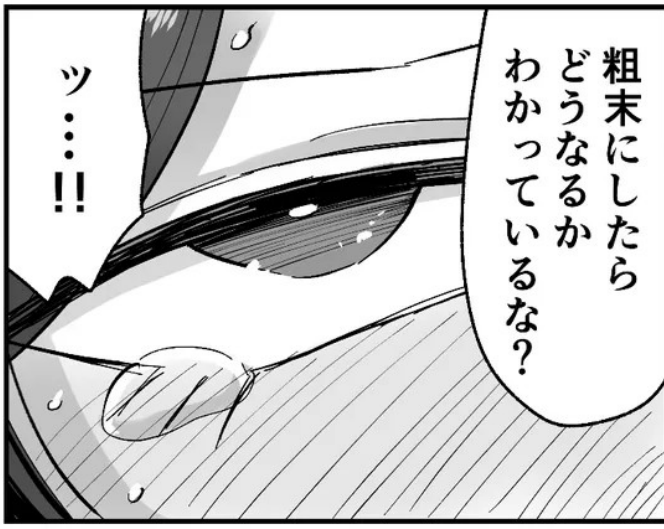




フェラが
巧くなれば
おのずと
飲むように
なるしな

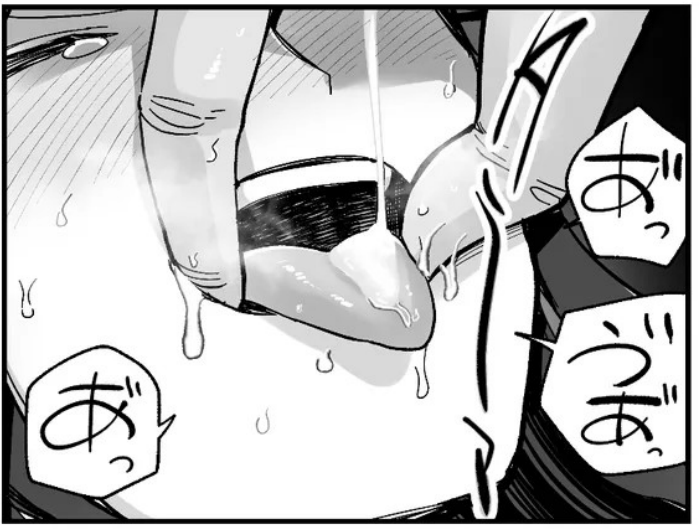
上の口で
賞味して
いきなさい

あーっ!!
あーっ!!
あーっ!!



粗末にしたら
どうなるか
わかってるな?

ツ...!!



あーっ

あーっ

あーっ



フハハハ
いい
飲みっぷりだぞ
鯉穂君

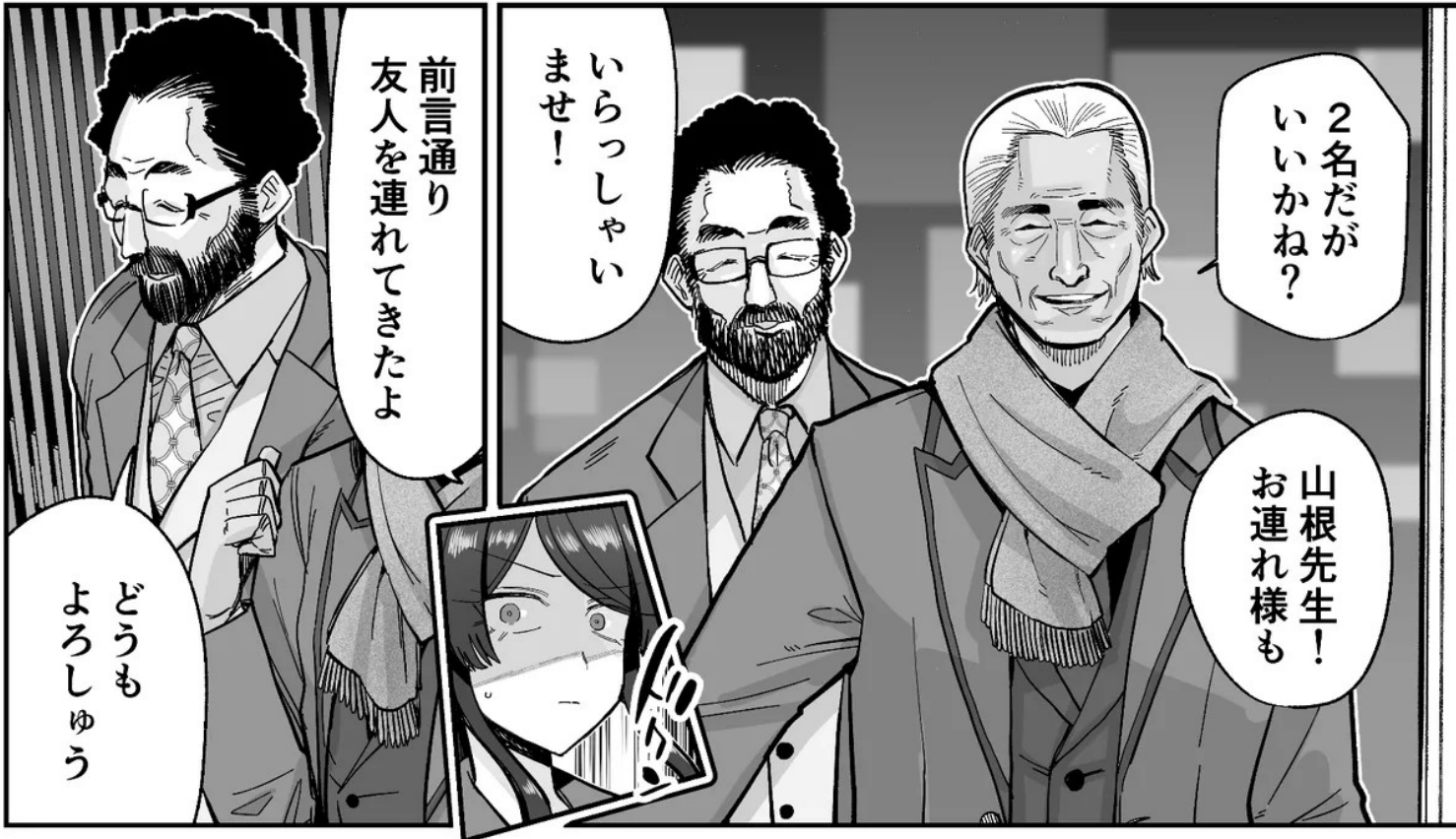
最低最悪の
味.....

あーっ





あいにく
今日も予約
入ってないから
裏で仕込みでも
して…



2名だが
いいかね？

山根先生！
お連れ様も

いらっしやい
ませ！

前言通り
友人を連れてきたよ

どうも
よろしゅう



今日は
一段と寒いな

全く



鯉穂
おしぼりを

はい…！



こいつにも
いつもの感じで
適当に頼むよ

楽しみやなあ

畏まりました！
どうぞ
お掛けください



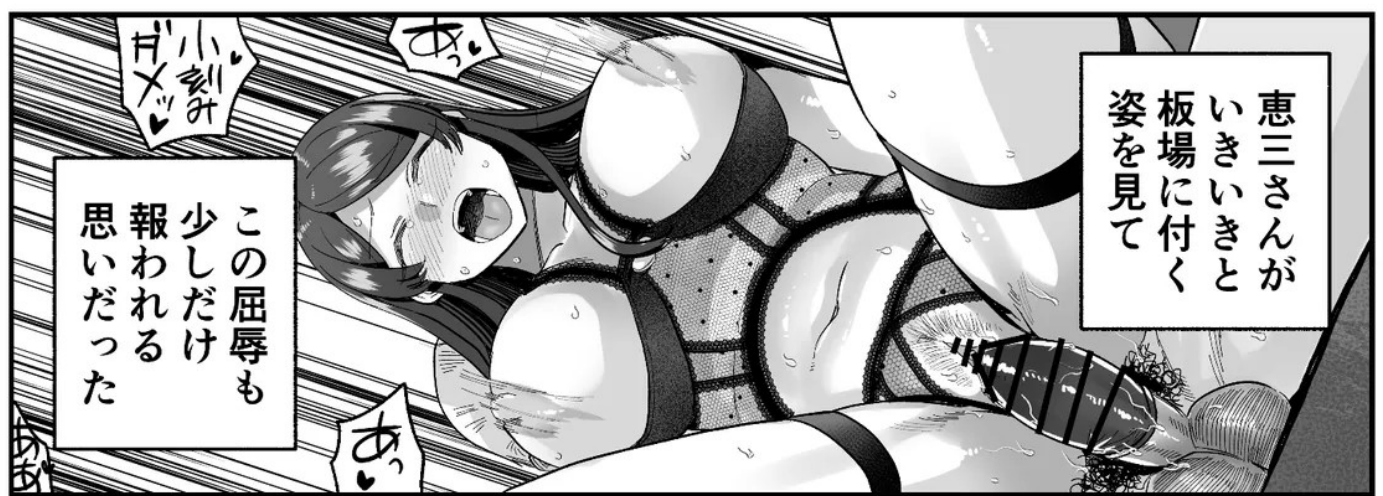


夫が自信を
取り戻すのに
アタシが思うよりも
効いたようだった



客足も
さることながら

舌の肥えているだろう
お客様からの賛辞は—



恵三さんが
いきいきと
板場に付く
姿を見て

この屈辱も
少しだけ
報われる
思いだった



わっわっわっわ!!

なんととしても
半年間を
耐え抜いて…

ミチヤチヤ...

みぢぢぢ...

ん

みぢぢ...

あぁ

あぁ

アタシも
この暗闇から
脱け出してみせる

ひん

ほんほん

あ

ほん

ほん

ほん

ほん

あ

あ

あ

ん

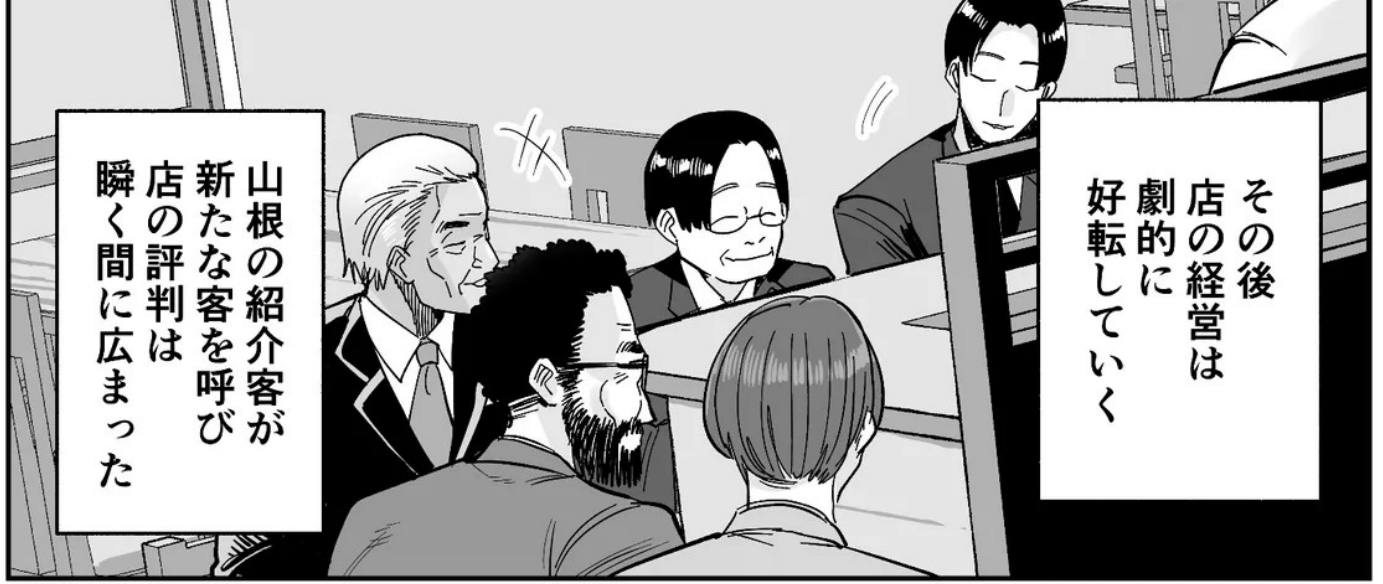
あ

ほん

ほん

あ

あ



山根の紹介客が
新たな客を呼び
店の評判は
瞬く間に広まった

その後
店の経営は
劇的に
好転していく



恵三さんの腕が
認められたのだ



忙殺されつつも
閑古鳥が鳴く日々を
脱したことで

恵三さんの
仕事のモチベも
上がっている
ようだった



ついに週末には
予約で満席となり
来客を断るほど
盛況な店となった

そうなると流石に
2人で店を回すのは
限界となり
スタッフを雇った

ある晩

その日は
アタシから
夫を誘った



元々
夜の営みは
少なめだったが

山根の件や
店の忙しさで
ずいぶんと
ご無沙汰だった

罪滅ぼし…
になることはない

恵三さん…

けれどせめて
上書きしたかった

ああ…

いよいよ
鯉穂…







そんなところ
ダメだよ
鯉穂…

汚いからっ



恵三さんの
なら…んっ

汚くない
からっ…

うああ

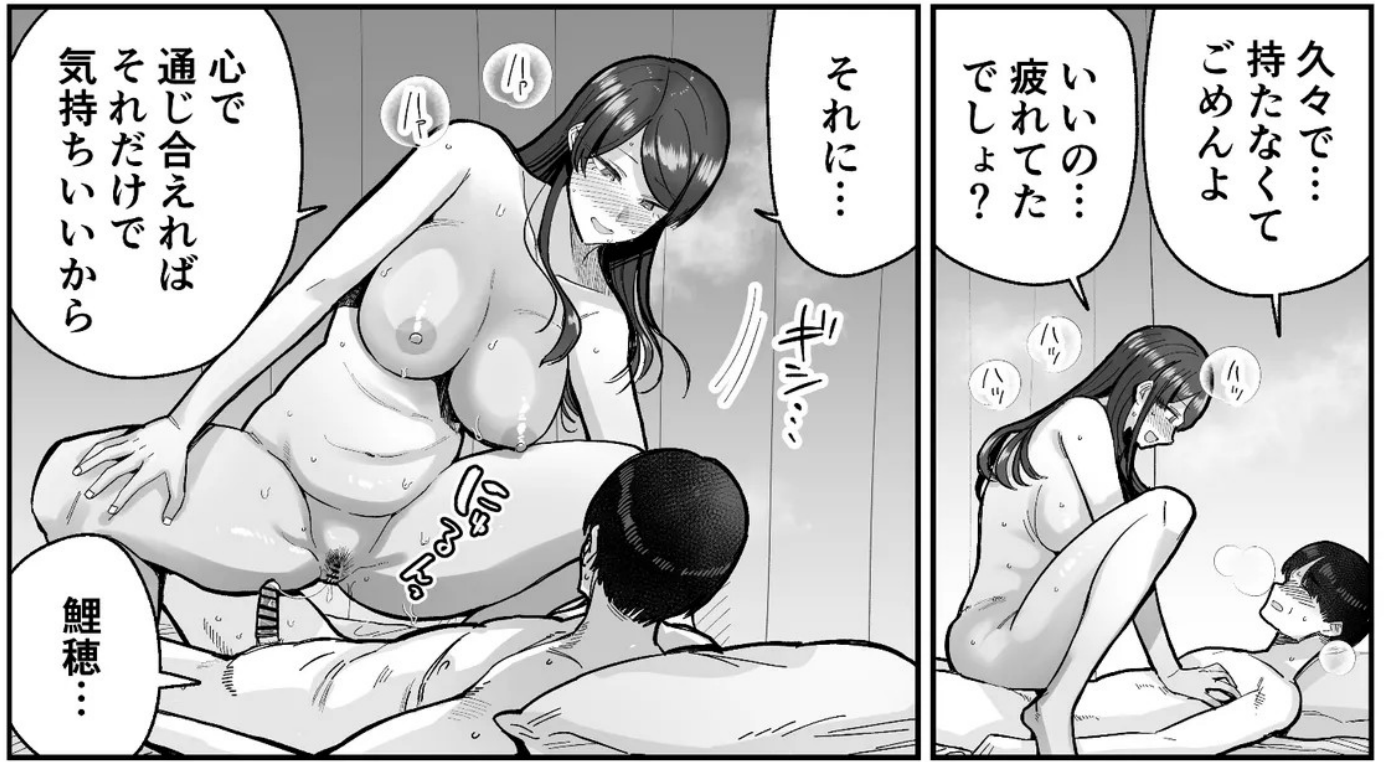


上書きする
つもりが

逆に判然と
してしまった

形もサイズも…
アイツとは
まるっきり違うこと





辞めるにしても
引継ぎとかあるだろうから
すぐには無理かもだけどさ

そうだ…

恵三さんからは
本当のパートに
見えてるんだった

店の経営も
上向いて来てるしさ

まだ贅沢は
できないけれど

鯉穂の負担を
減らすことは
できるかなって

恵三さん…

もしも今
愛人契約を
辞めた
としても…

おそらく
山根は—

躊躇なく
秘密を
バラす…

それに
今の「伊吹」の常連客は
ほとんど山根の関係者…

彼らがアイツの意向で
突然来なくなることも
十分考えられる





馬鹿だった…

キレイにして
来たわよ…

私としては
浣腸も含めて
尻穴性交だと
捉えていたがな

ふざけッ！

だから今回は
セルフ浣腸で
我慢しただろう

勝負の前に
コンセンサスを
取れていなかった
こちらの落ち度だ

お陰で
ずいぶんと
待たされたが…

楽しみすぎて
全く萎えることが
なかったぞ

さあ
尻を広げて
見せなさい

わわわ…
わわわ…
わわわ…

終わりを
早めるつもりが
逆により
過激なプレイを
通してしまった

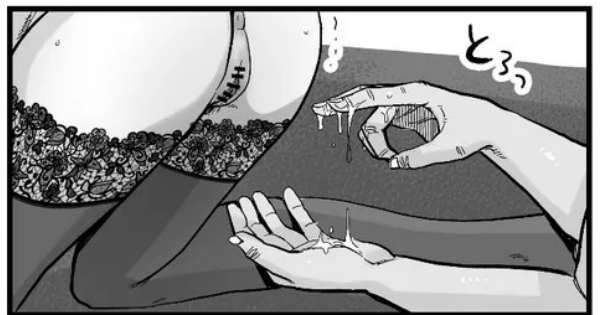


物欲しそうに私の指の腹に吸いついて可愛らしいな…



力を抜け

私もケガはさせたくない



とろっ



活発にうねって私の指を神輿の如く担ぎ入れてくれる…



どれ中の方は…

おお関節ごとに丁寧に迎えてくれるじゃないか



鯉穂君にアナルの才能もあつたとは

店とアナルは入って見ないとわからないものだ

だからこそ開拓し甲斐があるのだが

尻から得られる
快樂の種類は
謂わば「苦味」だ

それを
最初のうちは
クリトリスの
「甘味」の快樂で
和らげてやる

するといずれ
この苦味の
良さに
気づく…

あ…
あ…
声：
出したく
ないのに…

意志が
負けるツ—



私が贈った
ブランド化粧品や
海外美容サプリは
撮っているだろう？

下着なんて
明らかにグレードが
上がったわけだが—

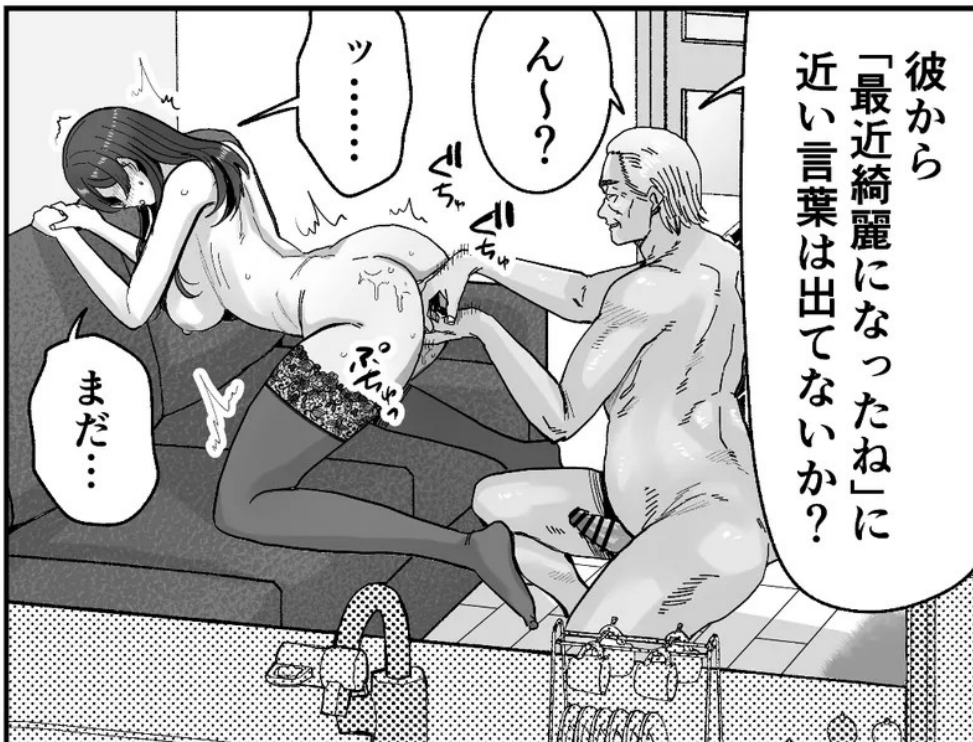


しかし
鯉穂君はみるみる
美しくなっているが…

惠三くんは
君のそんな変化に
気づいているかね？

彼から
「最近綺麗になったね」に
近い言葉は出てないか？

まだ…





…やはり
気づかないか

まあ彼は
仕事が恋人
だからな

……ッ！



ほうら
2本目もすんなり
啜え込んだぞ…



おっとこれは
侮辱じゃないぞ？
むしろ私は…

彼のあの
仕事熱心ぶりに
感心している
ぐらいだ



だがしかし—
伊吹の立て直しが
彼の勤勉さによる
ものだとしたら

その彼を
支えたのは
間違いなく
鯉穂君—

君の
献身だろうな

音ッ…こいつ

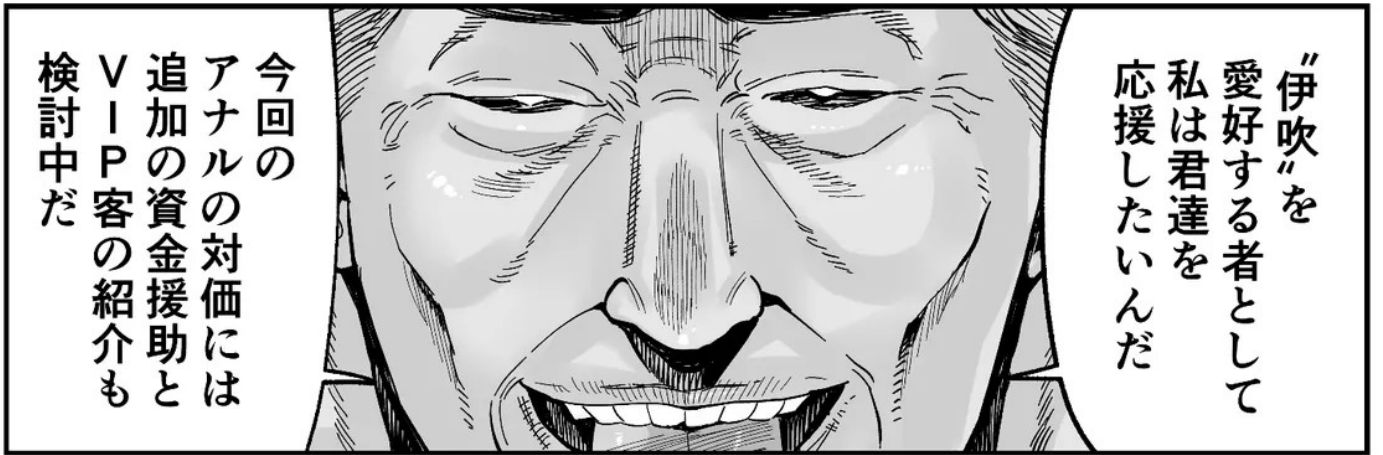
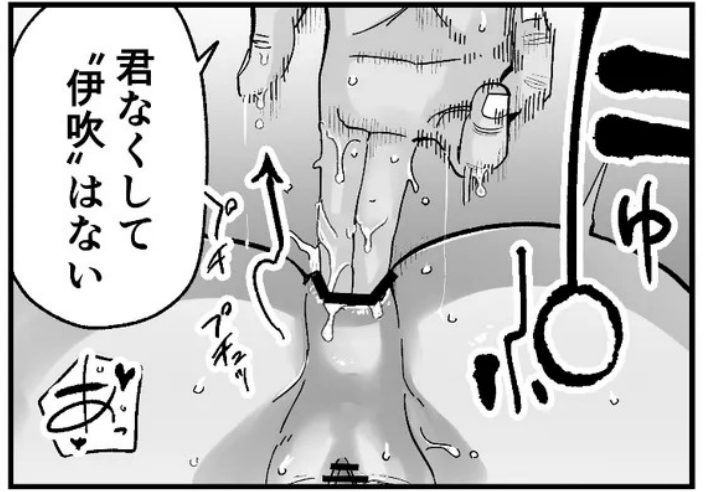
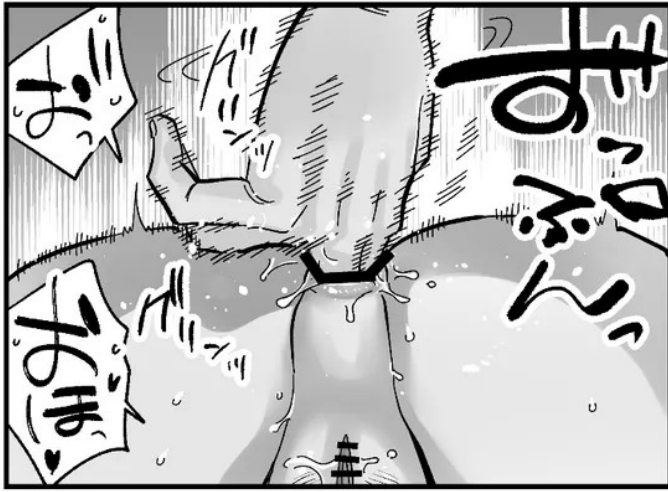
指を広げて
わざと立ててる

アタシの
羞恥心を
煽るためにッ…

んおっ

はっ

おっ



そろだ
期限付きとは
いえー

アタシは
この悪魔に身体を
売った

それなら
いつぞ

搾れるだけ
搾ってやるわ…!!

どれだけ
弄ばれようと

心だけは…
魂だけはー

ホカマ

絶対に
売り渡さない
から!!

絶対

に



心地よい
蠕動だ

うむ
プリプリで
新鮮



膣とは
まるで違う

強烈な
圧迫感…

どうだ？
初物の
アナルの
味は？

どうも
こうも…

こんなの…

普通じゃ
ないわッ…

なかなか
核心を突いた
感想だ

そう
“普通”
じゃない

それが
よいんだ



食事における
最高のソースは
空腹だが

セックスにおける
最高のソースは
アブノーマリティ
この異常性なのだ

えっ
ちよつと
何…!?

少し体位を
変える

多くの体位は
マンコに
挿入するのだから
当然マンコ用だ

しかし
アナルには
アナルに
適した体位が
あるのだよ

その一つが
これだ…

タコ
フグ
蛸や河豚を引く用の
包丁があるようにな



ぬうう…!!

深あぁ…

はぁッ…

んおっおっ…

斜め上方向からの
グラインドにより
Gスポット裏と
ポルチオという
快感の鐘を
同時に撞き下ろす

頭の中で
鳴り響いて
いるだろうか？

ナニ
これえ…

ナニ
これえ…!!



その音色：
君の喉を介して
私にも
聴かせてくれ
ないか？



なら今後は
恵三君にも
アナルで可愛がって
もらいなさい

いやっ
こんなこと
夫とは...

ほんっ
ほんっ
ほんっ

ほんっ
ほんっ
ほんっ

ほんっ
ほんっ

では
つまりここは
私専用の穴
ということか

...そっ
そうです

どちゅっ
どちゅっ

どちゅっ
どちゅっ

アタシの
アナルは
山根先生の
ものです

だから...
山根先生の
おちんちんの
カタチに
してください

ただの演技...
口から出任せの
はずなのに...

背徳感で
気が振れそう...

フハハ
今のは
よかったぞ
鯉穂君

おかげで
私も
もう限界だ

はぁ
はぁ
はぁ

はぁ
はぁ
はぁ
はぁ
はぁ

アタシも…
イツ…くう…

恵三君との
ヌルい営み
では到底
ヒリ出せぬ
妙味…

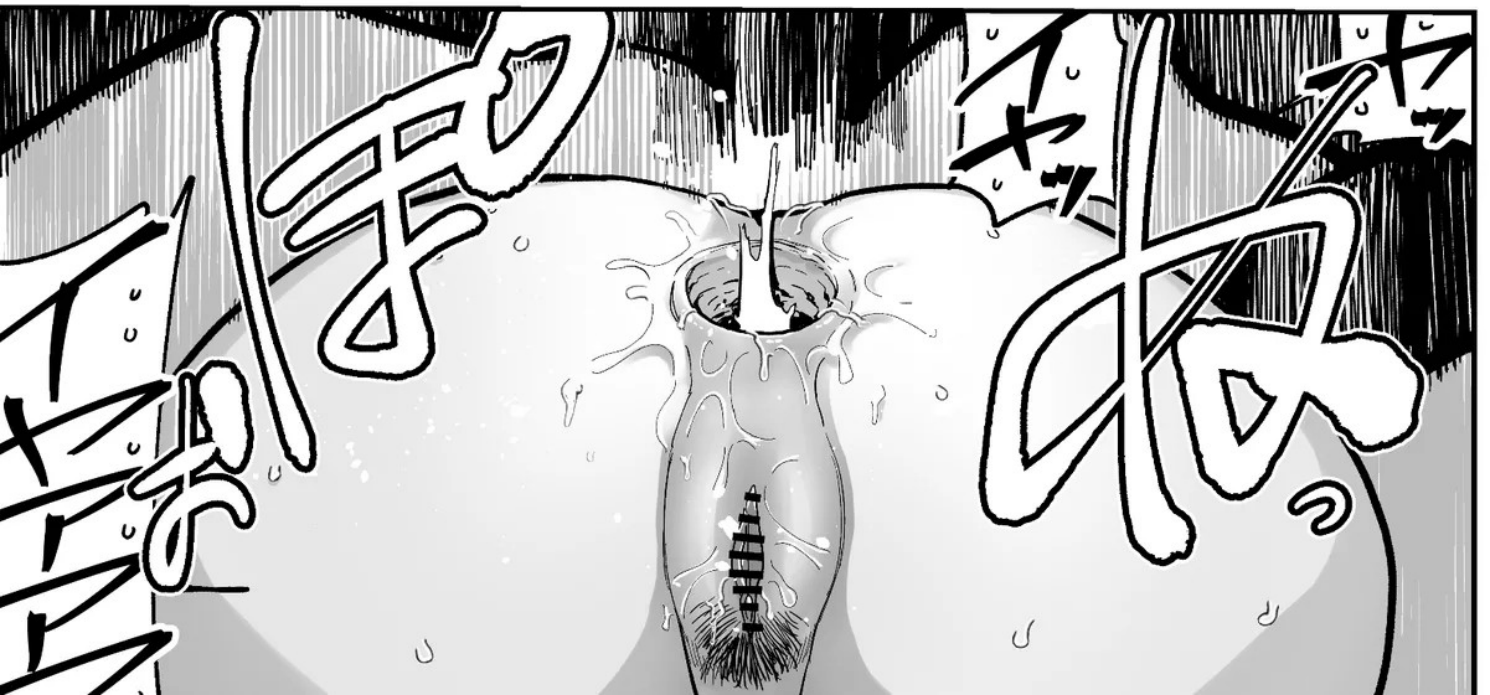
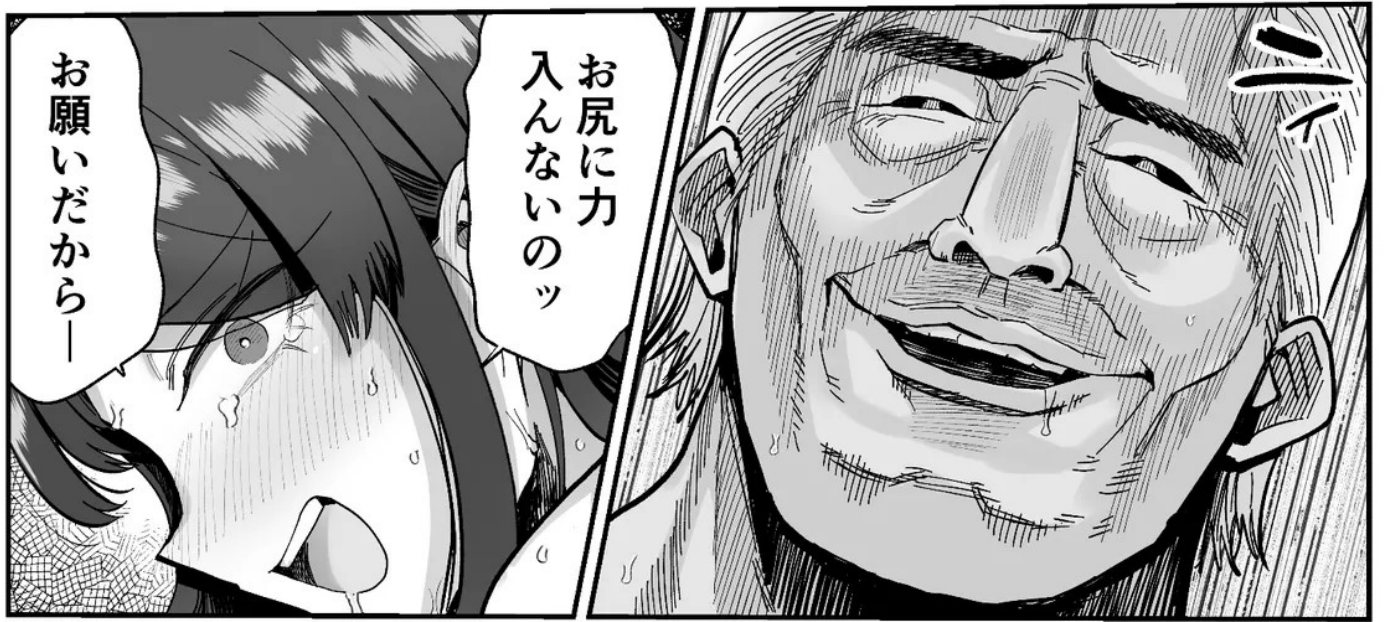
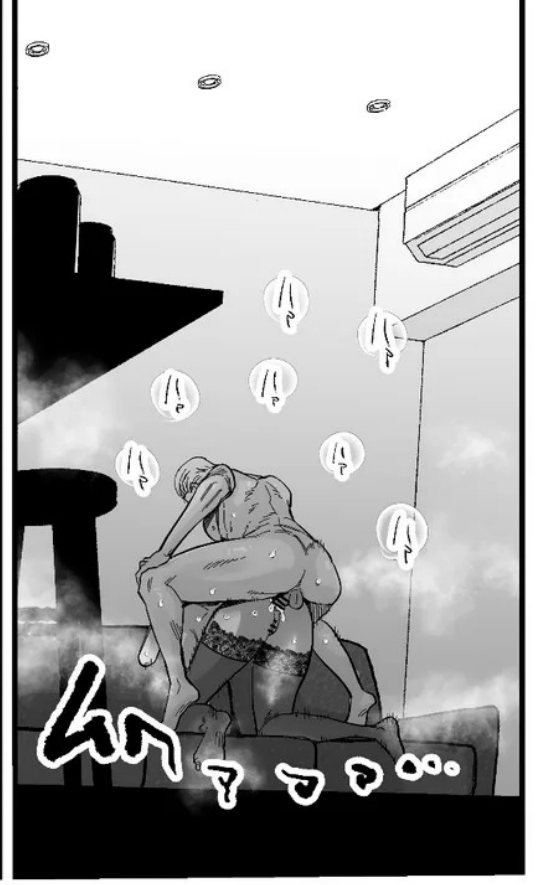
ケツ奥で
堪能しろ！

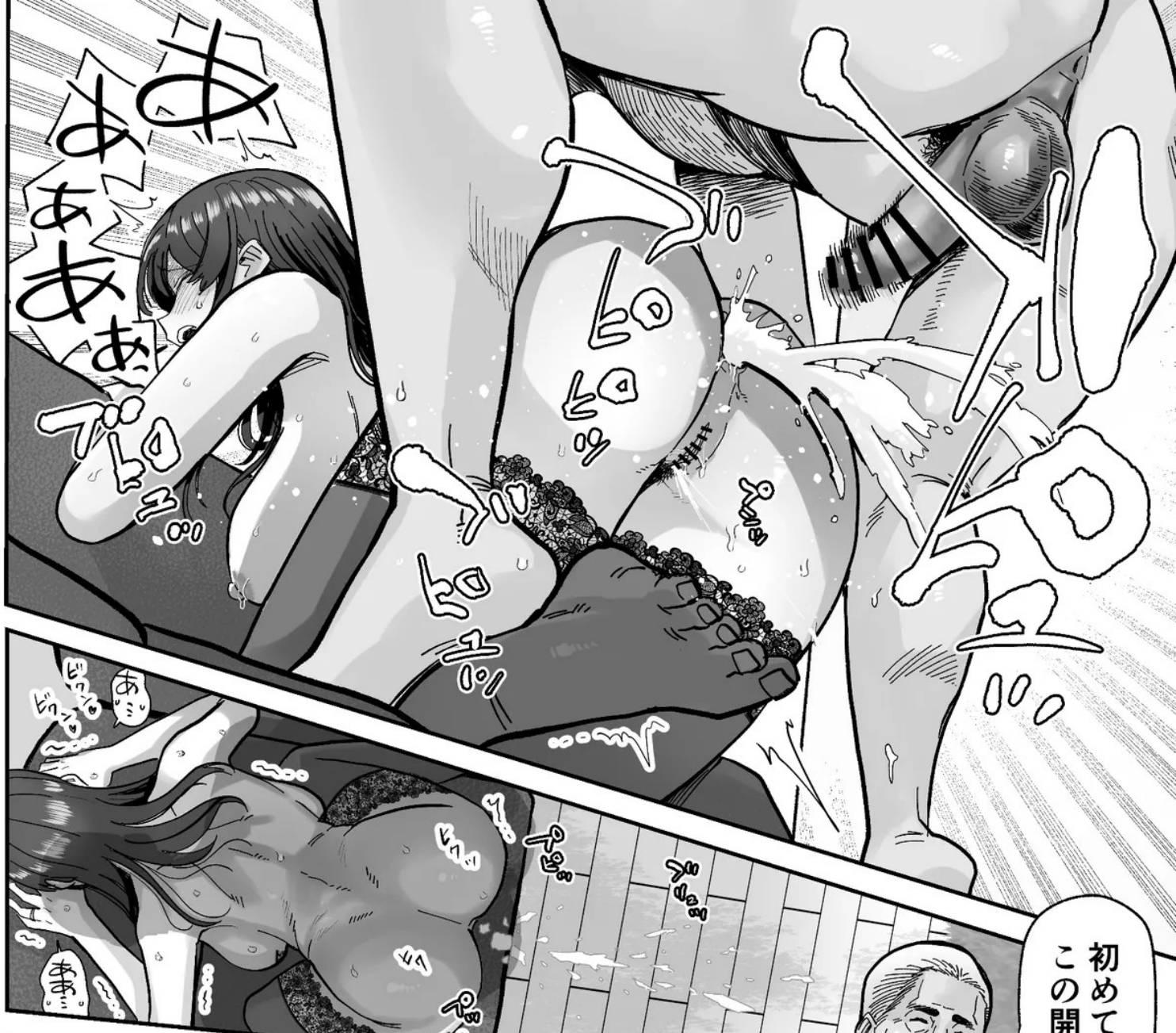
ありがとう
ございます…！！

先生の精子…
ご馳走に
なりますう…！！









初めてにして
この開花ぶり…

末恐ろしい
アナルだ

残す
契約期間は
3か月—

これまで以上に
丹精込めて
調理していくぞ



私の座右の銘は
初志貫徹でな



宣言通り
必ずや君を
極上の女に
造り変えてやる



契約が切れるまで
アタシは演じるだけ—



アタシは
恵三さんの妻

これまでも
これからも
それは変わらない



快楽に溺れた
愚かな女の
演技をする
だけだから—

先生えっ♡

キス
気持ち
いい♡

その後は
きつと
また日常に
戻れるから—

絶対大丈夫
だから—

もう少しだけ
待ってて…

恵三さん—





続

この作品はフィクションです。
実在の人物・地名・団体等は一切関係ありません。
この作品含む弊社著作を無断で掲載及び配信することは禁止しております。

著：超苦鉄質岩(サークルMAFIC)